

HIV/AIDS とともに生きていく～日本と世界のいまとこれから～報告書

<企画展概要>

○実施期間：

2007年12月10日（月）～21日（金）10:00～18:00（土日休み、21日は20時まで開館）

○企画展趣旨：

HIV感染者数は、世界全体で3,860万人、その70%がサハラ以南アフリカに集中している。1日7600人がエイズで命を落とし、依然として深刻な課題である。低所得国では治療薬が高価なこと、特許の問題のためにHIV感染者で必要な治療を受けられている人は僅か4%にとどまっている。感染者への差別意識や男性優位の価値観が根強い社会では、予防教育も進まず、エイズ孤児の問題も存在する。

一方、エイズ治療や予防検査が進む高所得国にあって、その感染者が増えているのが日本。特に若者への感染の広がりが深刻になっている。この状況を変えるには、エイズを含めた保健医療分野の国際協力を広げ、世界全体で行われているエイズ撲滅の取り組みに参加することで、日本国内におけるエイズに対する意識を啓発し、エイズとともに生きる偏見のない社会を作っていくことが必要である。そのためのきっかけや、今後のつながりをプラザが提供できるものと考え、この企画展を実施した。

○企画展目標：

- ①HIV/AIDSに関する世界と日本の現状や、治療・予防啓発活動をしている団体などを紹介する。
- ②HIV/AIDSを身近な問題として考え、今後の活動につながる「きっかけ」を得る機会を提供する。
- ③保健医療分野における国際協力への関心を喚起し、自治体や地域国際化協会がNGOや一般市民と協力して、保健医療分野の国際協力に参加する足がかりをつくる。

○協力団体について(五十音順、団体法人格・敬称略)

・赤枝医学研究財団/赤枝恒雄医師（赤枝六本木診療所院長）<http://www.akaeda.com/>

（財）赤枝医学研究財団やSTAR基金を設立し、ガールズガードライブ、エイズ街角無料検診・街角女性相談室、リスナー参加型ラジオ・ガールズガード、性教育ピアエデュケーター養成講座、女性のための健康フォーラム開催、国際医療協力など「若者を巻き込む」ユニークなエイズ予防啓発活動を続けている。著書に『セックスが世界を滅ぼす』『ガールズガード』など多数。

・エイズ予防財団 <http://www.jfap.or.jp/>

1985年3月に日本で最初のエイズ患者が報告されたことをきっかけに、エイズについての正しい知識の普及、予防啓発、検査・診療体制の充実などを目的として1987年に設立された。その他にもHIV感染に関わる相談、研修、支援、国際協力、調査・研究、日本エイズストップ基金などさまざまな事業を行っている。

・シェア＝国際保健協力市民の会 <http://share.or.jp/>

タイ、カンボジア、南アフリカ、東ティモール、日本で、医療関係者派遣や人的ネットワーク構築、ワークショップ形式の学びあいを重視した協力関係を築いてきた。地域の人々と協力して、人づくり、自発的な助け合いによる健康づくりを目指す。すべての人々が基本的な保健医療サービスを受けられるようになること、健康づくりが地域の人々自身の活動になることを目標とする。

○展示内容：

HIV/AIDS 最新情報の図やグラフによる掲示／HIV/AIDS Q&A コーナー／団体オススの HIV/AIDS をテーマにした書籍や映画情報の提供／パネルや写真、書籍による協力団体の活動紹介／ニューズレターやパンフレット、多言語エイズ情報本（ミニパンフレット）の配布／各種研修事業報告書紹介／特別企画「エイズを知るためのワークショップ」（シェア＝国際保健協力市民の会）の実施

○特別企画の開催：

シェアの協力の下、『エイズを知るためのワークショップ』を12月18日（火）に実施。

○来訪者内訳(アンケート回答者数:21名)

地域国際化協会 5名（かながわ国際交流財団、熊本県国際協会）／NGO・NPO1名（rbidj）／会社員 5名（(株)ジブラルタ生命保険）／教育関係者 1名／学生 5名（筑波大学）／その他 4名（メディア、Pmda）

○来訪者が参考にした広報媒体

市民国際プラザウェブサイト 4名／その他ウェブサイト 3名（国際協力マガジ 2名）／メーリングリスト 2名（Development Magazine）／友人・知人から 4名（JANIC にて）／その他 11名（たまたま寄った 4名、研修 5名、仕事で来て立ち寄った、家族から）

○印象に残った展示について(またその理由)

<赤枝医学研究財団/赤枝恒雄医師>

自ら若者の中に入って行って予防に尽力している姿にうたれた。／伝えなければならない世代に、積極的に伝えていく活動が強く印象に残った。／日本の若者に活発的な行動をしているなと思ったから。／日本でのとりくみのことを知らず、医師が奮闘していることに感動／このような活動を初めて知った。日本でもエイズに関する取り組みがもっと積極的に行われるべきだと感じた。／写真が、たくさんあったし活動が分かりやすかった。／赤枝先生の活動が若者の中で広がっていることがわかる写真や資料だった。／ガールズガードの活動、写真が豊富でよかった。

<シェア＝国際保健協力市民の会>

エイズボランティアチーム HAATAS の活動を知らなかったの、知れてよかったです！本当にすばらしいと思い、とても興味を持ちました。／実際、今現在どのような活動をしているのかが写真（パネル）を通してわかりやすく説明してある。／実際の活動の様子が写真とキャプションで良く分かった。／シェアとエイズのパネル、1日 7900人がエイズで死んでいる。／DVD が現地の様子をわかりやすく伝えてくれた。

<入り口の手作りポスター>

このビルの中であって手作り感がインパクトあった

<Q&A>3名

たまかな知識しかなく、より詳細な情報が得られた／HIV/AIDS についての Q&A がわかりやすかった。

<グラフ>

世界では HIV に新しく感染する人が減っているのに、日本では年々増えていること

<世界地図>

未だに新しい感染者が増加している

<関連書籍>

教育が大切と痛感

<その他>

全ての展示物の展示されているスタイルに感心しました。チラシやパンフレットなどの保管と、チェックは大変ですから。また展示された内容等は多くの人々に伝えられると尚良いと思います。

○今後やってほしい企画展の内容

環境と貧困のつながりについて／ストリートチルドレンについて（学生が活動しているボランティアなどについて）／エイズの現場からの報告のようなもの／災害時の情報伝達 文字、音声、映像の可能性／パレスチナ難民について／世界の地域格差／MDGs に対する日本の活動／ジェンダー／難民問題、アフリカの現状について

○評価と今後について

・企画展の目標の達成度について

①HIV/AIDS に関する世界と日本の現状や、治療・予防啓発活動をしている団体などを紹介する。

→HIV/AIDS の現状を知らせ、団体を紹介することは出来た。しかしながら、来訪者の数があまり伸びなかったために「多くの人に紹介する」ことはかなわなかった。深く反省すべき点である。

②HIV/AIDS を身近な問題として考え、今後の活動につながる「きっかけ」を得る機会を提供する。

→アンケートを見ると、身近な問題として感じていただけた方が多かった。特別企画のワークショップにおいては、「次の行動」について言及される方がいらっしやった。

③保健医療分野における国際協力への関心を喚起し、自治体や地域国際化協会が NGO や一般市民と協力して、保健医療分野の国際協力に参加する足がかりをつくる。

→実際に自治体、地域国際化協会、NGO の協力への足がかりになったかどうかは不透明だが、今後の協力につながるような情報を提供できたものと思う。

・アンケートによる企画展へのアドバイス

→今回は、アンケートで企画展自体へのアドバイスはほとんどなく、「分かりやすい展示だった」という意見が非常に多かった。文字が読みづらい、内容が薄いという感想もあったので、より分かりやすい展示を出来るように心がけたいと思う。

・来訪者が全体で 30 人だったことについて

→広報の遅れも考えられるが、この時期、エイズ関連のイベントが他団体でも多く行われていたことも原因として考えられる。6月と8月の企画展では「写真展示」を行い、来訪者が伸びた。今回は写真も多く展示したが、イベント広報中での写真展示のPRが足りなかったように思う。「企画展に行かないと得られない情報」をしっかりと盛り込み、それを確実に広報していくことが来訪者確保につながるのではないだろうか。3月の企画展ではその点について重視したい。

<アンケートより抜粋>

○今日の満足度（その理由）

95% : 1名

わかりやすくまとめられていた。担当者の方の説明をもう少し聞けばよかった。

90% : 1名

エイズに対する考え方を少し変えることが出来たから。誰にでも関係があることで、みんなで考えなければならぬことだとより実感しました

80% : 5名

写真がよいものを使っているのが興味深く見られた。自分の周りでやっていくためのヒントを得られた／はじめて来ることができました。霞ヶ関の中にこのようなスペースがあることがわかってとても満足です／難しいテーマを写真や図、関連書籍を用いて分かり易く紹介している／中・高での性教育の中でエイズに関して触れる程度に学んだが、改めて“問題”として考える機会はなかった。今日はよい機会になったと思う／写真や本が多くて分かりやすい展示だったと思う

60% : 1名 (理由の記述なし)

30% : 1名

内容が薄い。少ない。

20% : 1名

文字が読みづらい、内容が薄い

〇〇% (満足度の記述なし) :

まだよくわかりません。これから少しずつ勉強したいと思います／写真やグラフ中心でわかりやすい展示だと思った／日本で発症した人たちの支援などを取り上げて良かったのではと思った。でもとても良かったです／参考になりました。私自身も図書や資料を管理し、担当しているので／満足／HIV/AIDS について視覚から (数字も含めて) 知ることができました。ありがとうございました／HIV/AIDS 以外にも、様々な資料もあって、いろいろな情報を得られました／ちょっと性の問題について日本とか生々しいですね

○企画展 (全体) に関するおもな感想

エイズと共に生きる人の人数が多くても地域によっては命を落とす人の数は少なかったりするという数字をみてあらためて実感しました。エイズは全世界の問題だが、薬がないということが途上国にはより問題なんだと思った。／中学や高校などで移動展示会のようなことをやったら良いのでは？／内なる国際化をさらにパワーアップするような企画もあるといいなと思いました。／日本での活動をもっとみんな (日本人) に知ってもらいたいと強く思った。／エイズ関連というキーワードで来させていただきましたが、エイズ以外にも情報やつながりを得ることができ、有意義でした。／HIV/AIDS に関してこれからも情報を取り入れ自分でも考えていきたいと思う。今日はどうもありがとうございました。／いつも時間がなくてすみません。やっぱり展示会は夜間仕事がおわったあと見られる時間にして欲しいです。／勉強になりました。表面的な対応より根本的な問題の解決策が必要だと思いました。